

社会資本総合整備計画

「中心市街地におけるにぎわい拠点の創出」

事後評価シート

平成 25 年 8 月

三重県伊賀市

I 評価結果のまとめ

1. 事業の概要及び実施状況

都道府県名	三重県
市町村名	伊賀市
計画の名称	中心市街地におけるにぎわい拠点の創出
交付期間	平成23年度
事後評価実施時期	平成25年度
交付対象事業費	1,232百万円

○当初計画に位置づけ、実施した事業	
基幹事業	上野市駅前地区第一種市街地再開発事業
関連社会資本整備事業	なし
効果促進事業	保健センター整備事業 男女共同参画センター整備事業
○当初計画から削除した事業	
基幹事業	なし
関連社会資本整備事業	なし
効果促進事業	なし
○新たに追加した事業	
基幹事業	なし
関連社会資本整備事業	なし
効果促進事業	なし
○交付期間の変更	
当初	平成23年度
変更	なし

2. 社会資本総合整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

指標 1	上野市駅前周辺地区における歩行者・自転車通行量
------	-------------------------

項目	内容等
単位	人/日
従前値（基準年度）	1, 187（平成23年度当初時点）
目標値（目標年度）	1, 670（平成23年度末時点）
評価値①（評価年度）	1, 343（平成24年3月時点）
目標達成度	△
1年以内の達成見込み	あり
効果発現要因 （総合所見）	再開発ビル（ハイトピア伊賀）の竣工が平成24年3月であり、評価時点は竣工直後であったため、集客効果が発揮できず効果は発現しなかった。
備考	目標値には達しなかったものの、従前値からは増加している。
評価値②（評価年度）	2, 219（平成25年3月時点）
目標達成度	○
1年以内の達成見込み	—
効果発現要因 （総合所見）	ハイトピア伊賀への来館者の通行による増加及び道路、駅前広場等の公共施設の整備によるバリアフリー化や交通アクセスの向上による地域全体の集客力の増加に加え、中心市街地活性化基本計画における商業活性化重点軸（本町通り周辺）への誘導効果が発現している。
備考	—

3. その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

その他の数値指標 1	ハイトピア伊賀来館者数
------------	-------------

項目	内容等
単位	人/日
従前値（基準年度）	—
評価値（評価年度）	1, 244（平成24年度平均）
効果発現要因 （総合所見）	各種の施設が複合することにより、集客性とともに滞留性を付加することができ、にぎわいの向上につながった。

4. 定性的な効果発現状況

- ・ 館内の公益施設に貸館機能と行政窓口機能を併設したことにより、市民活動と行政の連絡、連携が容易になり、市民サービスの向上に寄与している。
- ・ 公益施設のみならず他の用途施設においてもベンチやテーブルを設置するなどフリースペースを設けており、集客性ととも滞留性を備えることで「まちの居場所」としての魅力を創出している。
また、これにより市民の交流、情報交換の場としてにぎわいの創出に寄与している。

5. 実施過程の評価

モニタリング	
実施内容	—
今後の対応方針等	—

住民参加プロセス	
実施内容	地権者とともに上野市駅前再開発ビル活用検討会を組織し、ハイトピア伊賀の管理運営や商業計画についての具体的検討を行ったほか、ハイトピア伊賀グランドオープンイベント（平成24年度実施）に向けての協働を行った。
今後の対応方針等	平成25年度において公共施設整備の完成をもって市街地再開発事業が完了することに向け、地元団体との協働によりハイトピア伊賀及び駅前広場等を活用した（仮称）まちなか再生イベントを開催し、にぎわいの持続を図る。

持続的なまちづくり体制の構築	
実施内容	周辺を含めた各種まちづくり事業との連携、一元化を可能とするため、地元まちづくり会社（株まちづくり伊賀上野）をハイトピア伊賀の管理会社として位置付けたほか、同社において商業施設所有者（株俳都ピア）との人的連携を行っている。
今後の対応方針等	（株まちづくり伊賀上野を中心としたまちづくり事業の展開を支援するほか、駅前広場や公益施設を活用したイベントの開催等を継続的に働き掛け、さらなるにぎわいの創出を図る。

Ⅱ 社会資本総合整備計画の成果の概要

1. 計画の目標

上野市駅前地区は、伊賀鉄道上野市駅の南方に位置する伊賀市中心市街地の玄関口にあたり、公共交通ターミナル機能に加え、一帯は業務、商業施設が集積している地域である。しかし、築40年を経過する上野産業会館や商工会議所ビルをはじめ多くの建築物が老朽化しており、都市機能の更新が急務である。

本市では、平成20年11月に中心市街地活性化基本計画の認定を受け、本市の地域特性を生かした、人が暮らし、にぎわいのある魅力ある中心市街地形成のための取り組みを行っているところであるが、これを先導し、中心市街地のにぎわい創出への波及効果を生み出す事業として、当上野市駅前地区を第一種市街地再開発として整備することにより、商業・地域振興機能（商業施設、商工会議所等）や公共サービス機能（保健センター、男女共同参画センター）等の複合機能を備えた施設建築物（再開発ビル）を建設し、中心市街地におけるにぎわい拠点としての新たな顔づくりを行う。

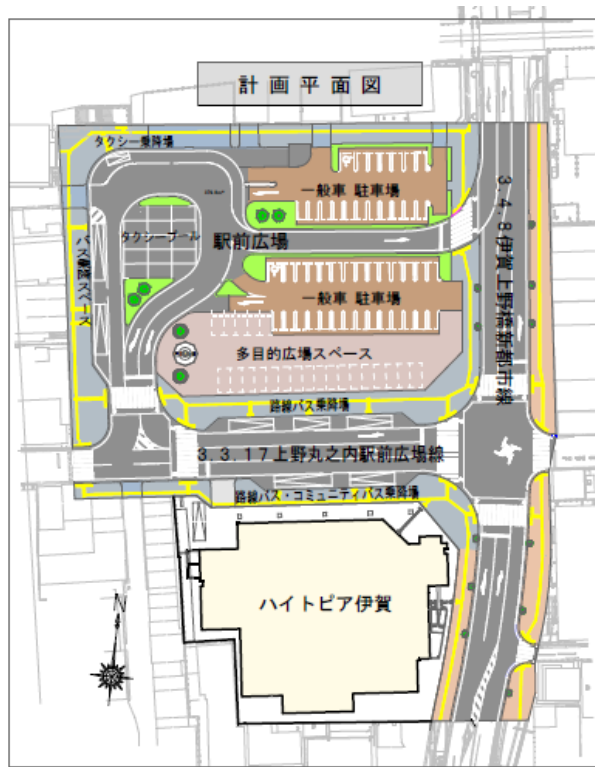
※ 上野市駅前地区市街地再開発事業は平成17年度からの継続事業であり、本件交付対象事業については平成23年度完了予定。

2. 目標を定量化する指標

指標	単位	従前値		目標値		評価値	
			基準年度		目標年度		評価年度
上野市駅前周辺地区における歩行者・自転車通行量	人/日	1,187	H23初	1,670	H23末	1,343	H24
						2,219	H25

3. 実施された事業の概要

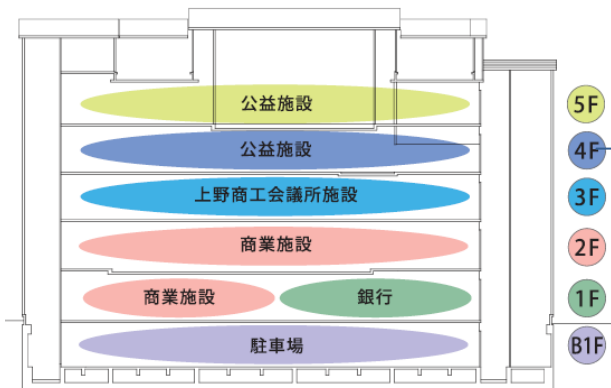
A-1 上野市駅前地区第一種市街地再開発事業



施設建築物 (ハイトピア伊賀)



[ハイトピア伊賀 エントランス]



C-1 保健センター整備事業



[保健センター 調理実習室]

C-2 男女共同参画センター整備事業



[男女共同参画センター 情報展示スペース]



[保健センター 健康ステーション]

4. まちの課題の変化

- ・市街地再開発事業により都市機能の更新を図ったことから施行地区内における課題は解消されたが、引き続き周辺区域における防災性の向上や都市機能の更新が望まれている。
- ・現在、駅前広場が整備中（平成 25 年度完了予定）であるが、暫定駐車場の開設、歩道・バス乗り場等の部分供用等により限定的ではあるが交通アクセスの向上に寄与しており、また、多目的広場の利用方法、設備・機能等の照会が増加するなど市民の関心が高まっている。
- ・ハイトピア伊賀に公共公益サービス機能及び商業・地域振興機能、駐車場を導入したことにより一定の「人の流れ」が生み出されているが、今後整備される駅前広場の活用と合わせ、さらなるにぎわい創出のための仕組みづくりが必要である。

5. 今後のまちづくりの方策（改善策を含む）

- ・周辺地区において実施されるまちづくり事業と合わせて子供から高齢者まで安心して豊かに暮らせる環境整備を行うことで継続的な都市機能の更新を図るとともに、将来的な建築物等の更新、活用に向けた手法の検討を行う。
- ・現在実施している駅前広場等整備工事について、交通上、集客上の支障を最小限に抑えるよう円滑に推進し、交通結節点としての機能拡充を図る。
- ・駅前広場等整備工事の完了後において、多目的広場等におけるイベントの実施など市民の利用を促進するとともに、ハイトピア伊賀の各施設との連携により楽しさ、快適さの増進やまちの魅力の向上を図るものとし、さらなるにぎわいの創出に努める。
- ・ハイトピア伊賀の地下及び駅前広場に計 99 台分の駐車場を整備するが、さらなる駐車場の拡充や無償化の要望があるため、周辺区域における既存駐車場の有効利用や新規整備を検討するほか、効率的な維持管理によるコストダウンに努める。
- ・まちづくり会社（株まちづくり伊賀上野）とハイトピア伊賀管理組合及び床所有者の連携体制を構築しており、今後、駅前広場駐車場の管理や周辺既存駐車場の一元管理など来街者用駐車場の管理や地元商店街等の連携の強化などにより、来街者へのサービスの強化、魅力の増進に努める。
- ・市街地再開発事業によりまちづくりの機運が増進したことを受け、周辺区域への波及効果を期待するとともに、市として中心市街地の持続的発展に向けた支援策を検討する。

